



入学を祝して

歯学部長 前 田 健 康

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新潟大学歯学部に入學された皆さんに、新潟大学歯学部の教職員を代表して、心からお祝いと歓迎の意を表します。また保護者ならびにご家族の皆様にも心からお慶び申し上げます。皆さま方のご期待にそえるべく、新潟大学歯学部で新入生の皆さんの能力をさらに大きく伸ばすことができるよう、私たち教職員も全力を尽くしたいと思います。

新潟大学歯学部の教育目標は、「包括的医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材および保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成」であり、「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。皆さんがこれから大学で学ぶ講義、実習の内容は社会に出るときのスタートラインに立つための内容でしかありませんので、人生100年時代といわれる長い人生を過ごすしていくには、日々進歩する学問を常に修得する必要があります。そのためには自ら学んでいくという態度が不可欠です。また、医療・福祉を目指す者は、問題を発見し、自ら学習し、問題を解決していかねばなりません。

大学を表すひとつの言葉に「知の森」があります。皆さんが新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が終息しない中、熾烈な競争を勝ち抜き、入学した大学は、大きく広い「知の森」です。この「知の森」は人々の長い歴史の中で育まれ大きく育った木々、そして今やっと芽吹き始めた小さな木々もあります。「知の森」は皆さんが想像している以上に、多種多様な木々が生い茂っています。この宝の山ともいえる「知の森」を利用しない手はありません。これまで皆さんが

受けてきた教育はいわば受け身の教育でした。教師から与えられた教材をひたすら暗記・学習し、試験に臨みました。しかし、試験の前に丸暗記した事柄は試験が終われば忘却の彼方であったという経験をしたことが皆さんあることでしょう。皆さんが選んだ歯学部という学部は職業資格を得るための学問を学ぶという面を持っています。いわずもがな、歯学部は歯科医療人、口腔保健・福祉医療人を育てる場です。皆さんの希望を叶え、夢を実現するためには、自ら学び続けるという姿勢・態度が重要です。赤ちゃんがお母さんから食べ物もらう、いわゆるspoon feedingから、自ら食材を見つけ、調理していくself-cookingに転換していかなければなりません。「知の森」である大学にはさまざまな素材が豊富に、また至る所に転がっています。この知の森を自ら探検して、自由に歩き回って欲しいと思います。

COVID-19の拡大が始まった当初は、教育活動も含め、日常生活にも大幅な制限が加えられていました。私ども歯学部でも、オンライン講義等による非対面型講義が実施され、実習・演習の開始時期が延期となるとともに、数々の行事が中止となりました。私ども教職員は通常と同じ教育効果をあげるべく努力してきましたが、教員の力だけで今まで以上の教育効果をあげることができたかは、はなはだ疑問です。「わざわざ大学に行かなくても、本やネットでも学べる」という意見も散見されます。しかし、大学に行くことは専門的な知識を学修するだけではありません。大学は講義を聴くだけでなく、実験やフィールドワークなどを交えて専門的な学修ができるという学びを提供する場です。学問だけでなくさまざまな経験が積める場でもあります。今は中断されていますが短

期海外留学、クラブ活動やボランティア活動は協調性や人間力を向上させ、また友人をつくる機会を与えてくれるでしょう。さまざまな経験は新しい出会い、発見をもたらし、視野を広げてくれます。大学で直接学ぶ意義をあげようとすればきりがありません。

このコロナ禍の中、歯学部専門科目では、教職員はもとより、学生の高い自覚により、いち早く対面型講義、実習を再開し、新学期からもこの方針を貫いています。コロナ禍での大学教育は学生諸君の良識ある行動によって支えられています。制限のある時期ですが、勉強だけでなく、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、教養のある社会人となるよう人間性を磨いてほしいと思います。

新潟大学歯学部は早くから教育改善を進め、全国歯科大学・歯学部の教育モデルケースとなっています。特に患者様を相手にした臨床実習は実践的な技能教育として高い評価を受け、臨床教育のフロンランナーとしての地位を得ています。さらに、大学院教育でも政府補助金に裏付けられた

教育改善を進め、学部レベルから大学院レベルまで、高い教育の質を担保し続けています。研究面の評価の一つとして科学研究費助成金の採択があげられますが、この助成金の採択率も非常に高く、本学ではトップに位置しており、研究能力の高い教員が君たちの学習支援にあたります。また歯学部校舎改修に伴い、新たな実習設備が導入・整備され、学生諸君の技能教育に活用されています。各種教材の整備・充実にも努めており、高い学習効果をあげるため、環境整備にも努めています。これらの素晴らしい教育環境を積極的に活用し、自分の能力をさらに高めるよう努力して下さい。

新しい生活様式の下、これらの活動は現時点ではこれまでのようにできないかもしれません。簡単ではないからこそ、皆さんの柔軟な発想が求められ、アイデアが活かされる貴重な経験となります。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を過ごし、卒業時に今年度新入生および保護者の皆様全員で喜びを分かち合いたいと思っています。





入学を祝して

医歯学総合病院副院長（歯科総括） 多部田 康 一

新潟大学歯学部歯学科・口腔生命福祉学科の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。世界史に記録される新型コロナウイルス感染症の世界史的蔓延、不自由を強いられる環境のなかで高校生活の大半を過ごし、皆さんは本学歯学部合格されました。この困難な状況に屈せず、入試という目の前の関門を突破したことは大きな自信となることでしょう。これから皆さんが新潟大学で十分に学び、社会で活躍していくことを疑いません。

皆さんはこれから歯学部において、歯科医学、口腔保健医療・福祉を学び、将来、専門的職業人やその指導者、教育研究者などとして社会に貢献することが期待される人材です。そのための土台作りから、卒業と同時にライセンスを持つプロフェッショナルに成長するまで、決められた年限内での知識・技術・態度における膨大な学びが必要です。皆さんが効果的に学習できるようにカリキュラムが組まれ、年度ごとの単位を取得することで、プロフェッショナルとなるための準備を整えてゆきます。焦る必要はありませんが、卒業まで着実に学び続けることが必要です。

卒業が近くなると、より実学的な学習である病院実習の時間が増えます。新潟大学医歯学総合病院は医歯学生と研修医師の実践的な学びの場であると同時に特定機能病院として地域の中核医療や高度医療を担う基幹病院でもあります。現在の新潟大学医歯学総合病院歯科の前身である新潟大学歯学部附属病院は1967年に開院され、過去55年にわたり全国で活躍する数多くの歯科医師を輩出してきました。本学、本院では教員指導のもとで学生が患者さんの治療を実際に担当する「診療参加・実践型」の歯科医師養成システムを長く守り続け、発展をさせてきました。これは教員の努力

に加えて、新潟大学歯学部の学生が医療人としてプロフェッショナルとなる自覚と高い志をもって、入学時から熱心に学んだうえで臨床実習に臨んだこと、そして実際に臨床実習において学生が患者さんに良質な医療を提供し続け地域の方々の信頼を得ることにより支えられるものです。皆さんも新潟大学歯学部同窓生の一員となりました。是非、この素晴らしい環境で存分に学び、皆さんの後輩に引き継いでください。また、皆さんは患者さんの診療に携わらない今の時点でも、将来医療従事者となる学生として社会に関わっています。日常生活においても責任ある行動が求められていることも忘れないでください。

新潟大学医歯学総合病院の理念は「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」です。歯科医療の特性から診療技術を高める重要性は当然のことですが、それのみでは質の高い医療を提供することはできません。高水準の医学的に妥当な医療は、適切なコミュニケーションが介在することによって初めて、患者さんの満足する質の高い医療として提供されます。そして人間性豊かな医療人となることに求められる道徳性や人間性は、授業で学ぶことだけでなく、皆さんの日常生活や行動を通して知ること、感じることで形成されてゆくものです。クラブ活動やボランティア、アルバイトなどの方法は様々ですが、社会と関わる機会を是非とも大切にしてください。

皆さんの経験すべてが学びであり、大学での学習を重んじながらも、色々なことにチャレンジし、楽しみながら充実した学生生活を送ること、そして無事に卒業を迎えてプロフェッショナルとして社会に羽ばたき活躍することを願っております。